



あなた、家族、地域の命を土砂災害から守るためのポイント

ポイント1 原則は 早い段階で安全な場所へ 逃げ遅れたら その場そのときで最も安全な場所へ

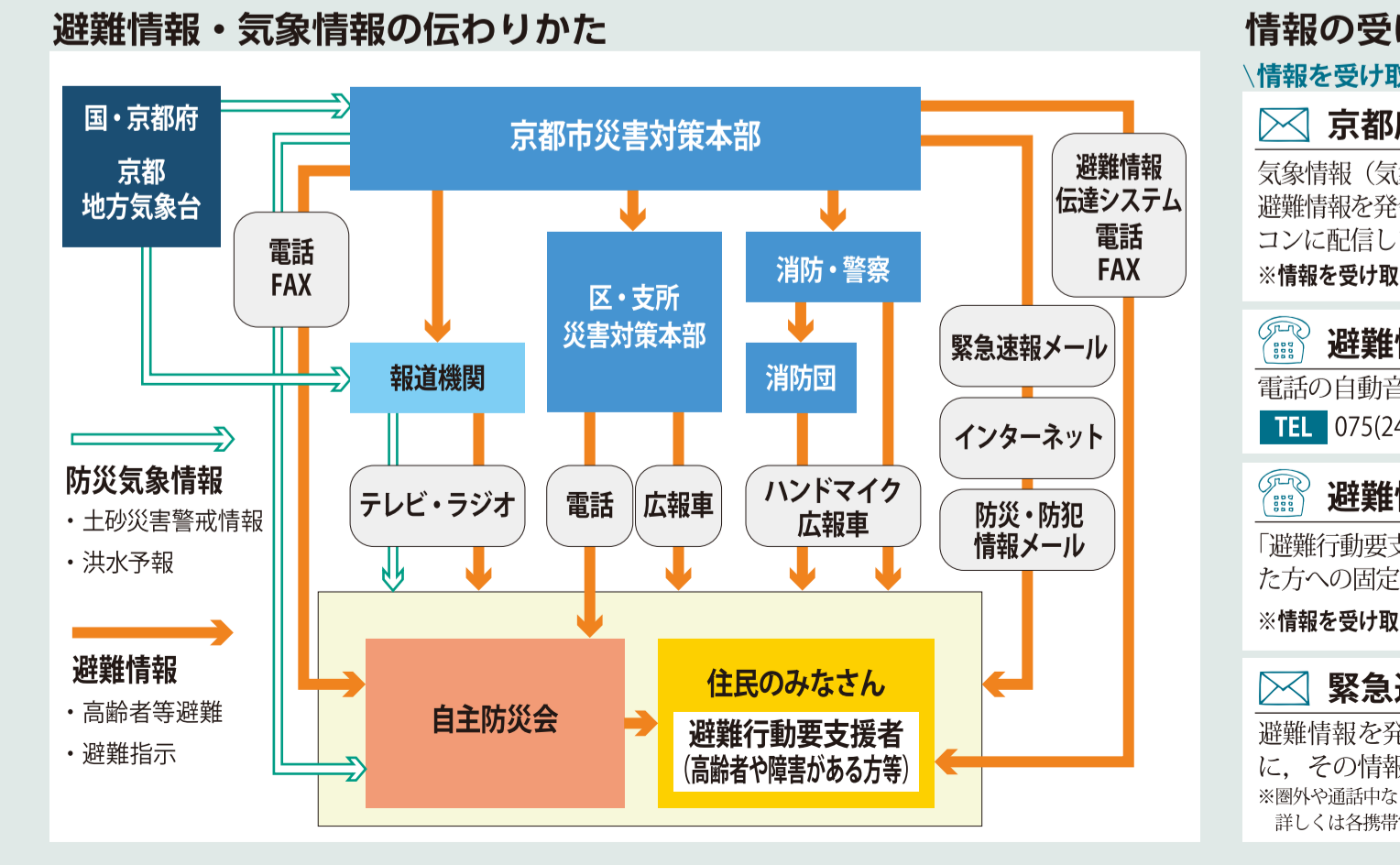
ポイント2 情報にしがたい適切に避難

ポイント2 情報にしがたい適切に避難

土砂災害や洪水災害などの危険性が高まった地域には、避難情報が発令されますので、その地域にいる方は、早めに避難しましょう。しかし、局地的な雨の場合には、避難情報が出ない場合があります。避難情報が無くても、いつもと違うと感じたら避難しましょう。

危険な場所から高齢者等は避難! (避難に時間のかかる方とその支援者も含まれます。)

災害のおそれ高い 危険な場所から全員避難!



ポイント1 原則は 早い段階で安全な場所へ 逃げ遅れたら その場そのときで最も安全な場所へ

早い段階で安全な場所へ避難することが大原則ですが、逃げ遅れてしまった場合には、その場そのときの状況で最も安全と思われる場所で身を守りましょう。

原則 / 早い段階で安全な場所へ

早い段階で安全な場所へ避難することが大原則です。

早い段階で安全な場所へ避難することが大原則です。

早い段階で安全な場所へ避難することが大原則です。

逃げ遅れたら / その場そのときで最も安全な場所へ

逃げ遅れてしまったら、その場そのときの状況で最も安全と思われる場所で身を守りましょう。

注意

● 浸水の中を避難するのはとても危険です。

● 土砂災害や水害の危険が近づいているときには、様々な情報が発信され、周りではいつもと違う状況が起こります。しかし、これらの情報等をただ待つだけでは、いつのまにか状況が悪くなり、避難のタイミングを逃してしまふおそれがあります。災害が発生しそうときには、**みずから情報や周りの状況に注意するよう心がけましょう。**

我が家の防災行動計画「マイ・タイムライン」を作成しましょう!

● 住んでいる場所や家族構成によって、災害時取るべき行動やタイミングは異なります。普段から防災意識を高め、適切な避難行動を知るため、家族や地域で相談しながら、防災行動計画「マイ・タイムライン」を作成しましょう。

● ウェブサイト(京都市防災ポータルサイト)で作成できます。また、区役所・支所、消防署でリーフレットも配布しています。

どこに逃げるべきか?

● お住まいの学区の指定緊急避難場所

● 土砂災害や水害の危険性の低い地域の親戚、友人宅など安全な場所

※指定緊急避難場所へ避難するときは、まず、開閉を確認しましょう。

確認方法 [1] メール、インターネットなどで確認。 [2] テレビのデータ放送(②ボタン)で確認。 [3] [1]と[2]で確認できない場合は 洛西支所 (075-332-9185) へ電話。

どこに逃げるべきか?

● 指定緊急避難場所に限らず、最寄りの高く頑丈な建物

● 自宅の2階以上で斜面から離れた部屋

注意

● 土砂災害から避難するときにはこんなことに気をつけましょう。

● 増水した水路や川に近づいたり、横切することはやめましょう。

● 斜面や渓流から離れた道を選びましょう。

● 周囲に危険を感じたときは、高く頑丈な建物に駆け込みましょう。

防災気象情報

● 大雨や台風が迫っている

警戒レベル5相当	土砂災害レベル5 土砂災害特別警報	●警戒レベル5 (緊急安全確保) 災害が発生・切迫。命を守るため最善の行動をとる。
警戒レベル4相当	レベル4 土砂災害危険警報	●警戒レベル4 (全員避難) 直ちに身の安全を確保できる場所へ避難(土砂災害は立ち退き避難が原則)。避難場所までが危険な場合は、近くの安全な場所や自宅内より安全な場所へ。
警戒レベル3相当	レベル3 土砂災害警報	●警戒レベル3 (高齢者等避難) 高齢者、障がいのある方、乳幼児など、避難に時間がかかる人は避難開始。その他の人は準備を進め、危険を感じたら早めに避難。
警戒レベル2	レベル2 土砂災害注意報	●警戒レベル2 (避難への備え) ハザードマップで避難行動を確認。避難情報の入手手段を確認。
警戒レベル1	早期注意情報	●警戒レベル1 (最新情報への注意) 最新の防災気象情報に注意する。

前兆現象

● 周囲に異変がみられる

● 土砂災害が発生する前には、前兆現象が確認されることがあります。次のような現象を発見したら、ただちに区役所等に通報したり、避難を開始したりしましょう。

がけ崩れ(急傾斜地の崩壊) 地面にしみ込んだ水が斜面をゆるめ、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちること

地すべり 地下水などの影響により、地面が広い範囲にわたってゆっくりとすべり落ちること

土石流 山腹や川底の石や土砂が、長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流れること

周辺の雨

● 多くの雨が降っている

● 降水量を自分で量ることもできます。

①雨が降り始めたから、カップを平らな場所に置く。

②溜まった水の高さを確認。

※1cmで10mmの雨です。

● 京都市大雨警報発表基準(京都市防災ポータルサイト) 1時間雨量: 50~60mm

裏面の土砂災害ハザードマップで自宅周辺、避難経路などの危険な箇所を確認し、早い段階での避難先と逃げ遅れたときの避難先を検討しておきましょう。

土砂災害の危険性のある地域にお住まいでない方は、職場や学校など、外出先からの避難を考えてみましょう。

わたしの早い段階の避難先は?

● お住まいの学区の指定緊急避難場所

● 小学校

● 土砂災害と洪水災害の危険性の低い地域の親戚、友人宅など安全な場所 記入欄

わたしの逃げ遅れたときの避難先は?

● 逃げ遅れてしまったら、その場そのときの状況で最も安全と思われる場所で身を守りましょう。

● 最寄りの高く頑丈な建物、自宅の2階以上で斜面から離れた部屋 記入欄

地域の避難ルール

● 地域で共有

● 指定緊急避難場所が最寄りに無い場合は、地域で話し合い、安全が確保できる建物などを決めておきましょう。また、周囲に異変を感じたら地域で情報を共有できるよう、ルールを決めておきましょう。

● 地域で避難ルールを決めておく

1. マップの「避難の際の危険箇所」などを参考に、周囲の異変を確認する場所や安全が確保できる建物を地域で取りまとめる

2. 周囲の異変をどのように地域で共有するのかが決める

3. 周囲の異変の確認や避難ルールに基づき訓練する

非常持ち出し品リスト

● 非常持ち出し袋(リュックサックなど)に入れておくもの

- 非常食
- 飲料水
- 救急セット、常備薬(処方箋)
- 携帯ラジオ
- 懐中電灯
- 乾電池・充電器類
- 貴重品 現金(公衆電話用に10円玉)・通帳・印鑑・健康保険証・運転免許証など
- マスク
- 手指消毒用アルコール
- ウェットティッシュ
- 体温計
- ティッシュペーパー
- タオル・ハンカチ
- 軍手・厚手のゴム手袋
- 筆記用具(油性ペン)
- 防寒具・雨具

● 京都市土砂災害ハザードマップ

防災に関する相談

● 地域で異変を感じたら(前兆現象を発見したら) 洛西支所地域力推進室 075(332)9185 へ電話

● 災害用伝言ダイヤル171

災害用伝言ダイヤル171とweb171は、災害の発生により、安否確認や問い合わせなどの電話が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始されます。

● 災害用伝言板 web171

緊急通報先

● 火事・救急・救助 119

● 警察・事件・緊急 110

● ライフライン

● 上下水道局西部営業所 075(841)9184

● NTT西日本 0120(444)113

● 関西電力送配電ダイヤル 0800(777)3081

● 大阪ガスネットワークガス漏れ通報専用電話 0120(819)424

情報の受け取りかた、調べかた

● 情報を受け取る / 京都府防災・防犯情報メール

● インターネットで調べる / 気象庁

● 京都市防災ポータルサイト

● 京都府土砂災害警戒情報

● テレビで調べる / KBS京都

● ラジオで調べる / NHK大坂第1